

1. 件名：「日本原燃株式会社におけるウラン・プルトニウム混合脱硝建屋
第1排風機Vベルト脱落事象に関する面談」

2. 日時：令和2年1月21日（火）14：00～14：30

3. 場所：原子力規制庁 2階B会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 核燃料施設等監視部門

白井上席監視指導官、福吉主任監視指導官

日本原燃株式会社

東京支社 技術部 部長

5. 要旨

日本原燃株式会社（以下「日本原燃」という。）におけるウラン・プルトニウム混合脱硝建屋で発生した第1排風機Vベルト脱落事象に関して、当該事象に関する「安全重要度・対応措置評価会合」（以下「SERP」という。）を模擬的に実施するため、令和2年1月16日に実施した面談時の追加質問に対する内容を確認するため、面談を実施した。

（1）追加質問に対して、日本原燃より以下の説明があった

- ・排風機、水素掃気設備が全て停止した場合、懸念される事象は水素爆発である。
- ・貯槽内の水素濃度が8%（新規制基準安全審査における水素爆発未然防止の閾値）に達する時間余裕は、現在の状況で約551時間（約23日）
- ・再処理施設しゅん工後において水素濃度が8vol%に達するまでの時間余裕：24時間以上
- ・なお、水素掃気用圧縮空気の安全空気圧縮装置が全台停止した場合の水素掃気用空気貯槽の容量は設計上約30分である。

（2）原子力規制庁から、了解した旨を伝えた。

6. その他

配付資料

○「ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋における排風機BのVベルト脱落」事象の想定リスクについて

－以上－